

Title	ダヴリュー デー ミラー博士小伝
Author(s)	血脇, 守之助
Journal	齒科學報, 12(11・12): 3-7
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/1540">http://hdl.handle.net/10130/1540</a>
Right	

## ◎ダヴリユーデーミラー博士小傳

Biography of Willoughby D. Miller, A. B. D. D. S. M. D. Ph. D. Sc. D.

血脇守之助

斯道ノ碩學ダヴリユーデーミラー博士去七月二十八日病ヲ以テ逝ク余輩博士ノ高風ヲ慕フモノ誰カ一掬ノ涙ナカラン誰カ一片ノ辭ナカラン

博士久シク獨逸ニ在リ斯道ノ研鑽ト子弟ノ訓育トニ從事スルコト茲ニ二十餘年一朝名譽ノ地位ヲ棄テ故國ニ歸來シ本年十月ヨリミシガン大學齒科學長トシテ後繼者ヲ養成スル豫定ナリシガ端シナクモ盲腸炎ニ罹リ終ニ起タズ享年五十四嗚呼悲哉

博士ハ一千八百五十三年八月一日合衆國オハヨウ州アレキサンドリヤニ生ル父ジョンエッチミラー氏農業ニ從事セシヲ以テ博士モ亦村校ニ通學ノ傍ラ耕耘ニ從ヒ父ヲ助ケタリ當時現ニ出藍ノ譽レアリシト云フ十三歳ノ時兩親ニ伴ハレテニューアークニ轉居シ中學校ニ入學ス一千八百七十一年卒業後直ニミシガン大學ニ入り四年ニシテバチエラアオヴァーツノ學位ヲ獲タリ(廿二歳其秋英國ニ留學シエデンバア大學ニ入り化學、博物學及數學ヲ專攻ス居ルコト一年獨逸ニ轉シ伯林大學ニ於テ更ニ前記學科ノ研究ヲ續ケ心竊ニ礦山技師タランコトヲ期セリ不幸ニシテ過度ノ勉強ハ博士ノ健康ヲ害ヒ翌年終ニ其學業ヲ中止スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ

偶々ドクトルルジエームストルーマン旅行ノ途伯林ヲ過ギルアリ博士之ニ師事シテ齒科醫學ノ一端ヲ窺フヲ得タリ、當時ドクトルラランクアポット伯林ニ在リテ米國醫科醫間ノ牛耳ヲ執リ兼テ學術界及社交界ニ於ケル高位地ヲ保チ居タリ、(アポット氏ノ夫人ハ駐獨米公使ノ令嬢ナリ)博士亦米國齒科醫間ニ交際シ深クアポットノ知ル所トナル茲ニ於テ博士ハ終ニ一生ヲ齒科醫學ニ捧グルク念慮ヲ起スニ至レリ

一千八百七十七年米國ニ歸リ舊ペンシルヴァニア齒科醫學校ニ入り齒科學ヲ研究スルコト二年一千八百七十九年ペンシルヴァニア大學齒科部(前記改名)ニ於テドクトルオヴデンタルサアジリーク學位ヲ受領シ直ニ伯林ニ歸リアポットノ門ニ其業務ヲ執ル此年十月アポットノ令嬢ト結婚ス同時ニ醫學ノ研究ニ從事シ有名ナルコッホ博士ト細菌學ノ研究ヲ始ム後幾クモナクエムデーノ學位ヲ得タリ

一千八百八十年ヨリ一千八百九十年迄現 皇后陛下及各皇族ヲ拜診セルト博士ノ學界ニ於ケル功績トニヨリ 皇帝陛下ハ特ニ樞密醫官ク榮譽ヲ博士ニ授ケラレタリ此榮譽ハ曾テ米國人ノ享受セザルトコロ又曾テ萬國齒科醫ノ享受セザルトコロ博士ノ名譽モ亦大ナリト云フベシ

博士斯道ニ入りテヨリ其發表セル研究業績ハ頗ル多大ニシテ齒科醫學ヲ裨益セルコト少ナカラズ萬國ノ同業者皆推シテ斯道ノオーソリテイト呼ブニ至ル博士ノ始メテバチニラアオヴアーツノ學位ヲ受領セルミシガン大學ハ博士ニ贈ルニドクトルオヴフィロソフィーノ名譽學位ヲ以テシペンシルヴァ

アニヤ大學ハ博士ニ贈ルニドクトル オヴ サイ エンスノ名譽學位ヲ以テスルニ至レリ

伯林大學ニ於テハ博士ヲ擧テ齒科講座ノ教授トナシ一千八百八十四年帝室教授ノ名譽ヲ與フルニ至レリ蓋シ外國人ノ未ダ曾テ享受セザルノ榮譽ナリ後博士又醫科大學教授會ヨリ Extraordinary Professorship (特命又ハ員外教授)ヲ以テ擬セラレシモ其内規トシテ獨逸人ナラザル可カラザルヲ以テ博士ハ獨逸ニ歸化スルヲ肯シゼス終ニ辭シテ受ケザリキ

始メ博士ノ伯林ニ齒科醫術ヲ試ムルヤ獨逸齒科醫ノ嫉視反對ヲ受クルヲ夥タシク終ニ文部大臣ニ迫リテ博士ノ教授ヲ免シ獨逸人ヲシテ之ニ代ラシムベシト云フニ至リシガ後遂ニ獨逸齒科醫ノ屈從ニ終リ専門雜誌ハ競フテ博士ノ業績ヲ我誌上ニ登載スルノ榮ヲ獲ントアセルニ至レリ

博士ハ獨逸ハ勿論全歐洲ヲ通シテ同業者間ノ尊敬ヲ一身ニ荷ヒ在歐米國齒科醫會、獨逸齒科醫會獨逸齒科教授會及萬國齒科會議ノ會長及四十有餘ノ學會名譽會員トシテ名譽世界ニ嘖々タリキ

博士ハ毎日多數ノ時間ヲ研究室ニ費シ孜々トシテ實驗ニ怠リナク其最モ有名ナル著作ハ口腔細菌學及齒牙保護療法ノ二者ナルガ外ニ發表セル業績約一百以上ヲ數フト云フ博士ノ如キハ眞ニ斯道空前ノ偉人ト云フベキナリ嗚呼誰カ博士ノ衣鉢ヲ傳フルモノゾ誰カ博士ノ衣鉢ヲ傳フルモノゾ

左ニ博士ノ發表セラレタル重ナル論文ヲ掲載セン

## ○博士ノ業績

- 一 口腔内ニ於ケル電氣的現象(一八八一—一八三年)
- 二 人齒ノ齲蝕上ニ及ボス細菌ノ影響(一八八三年)
- 三 「レプトトリックスギガンチア」ニ就テ(一八八三年)
- 四 人齒ノ齲蝕
- 五 齲蝕
- 六 史乘以前ノ齒牙
- 七 齲蝕發病ニ酸ノ作用
- 八 齲蝕ニ就テ(一八八四年)
- 九 人ノ口腔内ノ醗酵
- 十 人ノ口腔ノ細菌ノ生物學的研究
- 十一 錫及金混合充填ノ臨床的及電氣的研究
- 十二 齲蝕腐敗說ニ對スル意見
- 十三 人ノ口腔ノ醗酵作用
- 十四 ヘルプスト氏ノ新充填法ニ就テ
- 十五 齲蝕ニ關スル一問題ヲ論ズ(一八八五年)
- 十六 口腔細菌ノ作用ニ就テ
- 十七 人ノ口腔ノ「ゴノマ」狀菌
- 十八 「アマルガム」溶劑
- 十九 臨床ノ一例
- 二十 義齒抽出ニ行ヘル胃切開
- 二十一 「セメント」ニ關スル實地的研究
- 二十二 一ノ新シキ「コンマ」狀菌

- 二十三 口腔内豫防治療ニ於ケル或防腐藥ノ利用ニ就テ
- 二十四 齒槽膿瘍ニ於ケル上皮ノ增生
- 二十五 「コカイチ」ノ應用ニ就テ
- 二十六 パスツール氏ノ狂犬病療法ニ就テ(一八八六年)
- 二十七 消化管内ニ於ケル醗酵作用
- 二十八 人齒齲蝕ニ就テ
- 二十九 防腐藥力ノ試験
- 三十 口腔及齒牙ノ細菌的疾患(一八八七年)
- 三十一 齒牙ト食物ノ關係
- 三十二 陶塊ヲ以テスル齲蝕ノ補缺
- 三十三 象牙質ノ吸收、其再植術及齲蝕トノ關係
- 三十四 傳染源トシテ腐敗髓(一八八八年)
- 三十五 充填材トシテ錫及金混合充填
- 三十六 一ノ防腐性口洗劑
- 三十七 人ノ口腔ノ色素產生細菌
- 三十八 獨逸ニ於ケル齒科醫育
- 三十九 口腔内ノ病原菌
- 四十 充填材ノ防腐力
- 四十一 齒組織中ニ於ケル鐵ノ作用
- 四十二 齒牙ニ於ケル過酸化水素ノ作用(一八九〇年)
- 四十三 齒牙治療上ニ於ケル防腐藥ノ比較的試験
- 四十四 象牙ノ解剖及病理的研究
- 四十六 口腔ノ細菌(一八八九—一八九二年)

- 四十七 象牙質細管内容ノ分解(一八九〇年)
- 四十八 齒科及外科手術上ニ及ボス空氣中細菌ノ關係(一八九一年)
- 四十九 錫及金混合充填
- 五十 磷酸「セメント」ニ就テ
- 五十一 再殖齒ノ齲蝕
- 五十二 防腐藥ノ脱灰象牙質侵透度ノ差異
- 五十三 齒科及外科器械ノ消毒
- 五十四 傳染源トシテノ口腔
- 五十五 混合充填ニ就テ(一八九二年)
- 五十六 猿齲齒ノ顯微鏡的研究
- 五十七 拔髓ヲ避クル諸法ニ就テ
- 五十八 動物ノ齒牙ノ齲蝕
- 五十九 臨床上ニ於ケル制腐及防腐法(一八九三年)
- 六十 「アフリカ」人ノ齲齒
- 六十一 沃度問題
- 六十二 銅「アマルガム」及「アマルガム、セメント」ノ臨床的研究(一八九四年)
- 六十三 齒髓ノ細菌の病理
- 六十四 齒髓ノ細菌の病理的研究緒論
- 六十五 失活劑トシテ亞砒酸ヲ用フル法
- 六十六 「ドク&ア」レ「ゼ」ニ答フ
- 六十七 齒牙沈着物殊ニ綠色及金屬性沈着物
- 六十八 壓下ノ能粘及不粘性金(一八九五年)
- 六十九 齲齒ニ於ケル透明層(一八九六年)
- 七十 齒牙保護療法教科書(一八九六—一八九八年)
- 七十一 出齲セザル齒牙ノ齲蝕
- 七十二 象牙質上ノ熱ノ作用
- 七十三 象牙ニ於ケル彈丸傷及外傷ノ稀有ナル例(一八九九年)
- 七十四 陶塊充填
- 七十五 齲齒再發ニ就テ其電氣說トノ關係
- 七十六 象牙質ニ關シテ象牙質ノ不正ノ研究(一九〇〇年)
- 七十七 顎及齒牙ノ標準調製法(一九〇一年)
- 七十八 齒科器械ノ消毒
- 七十九 細菌膜ニ就テ(一九〇二年)
- 八十 口腔及齒牙ノ疾病ニ關スル免疫論緒論(一九〇三年)
- 八十一 象牙質透明ノ問題
- 八十二 免疫ニ關スル研究追加
- 八十三 「オートマルテハイド」ヲ以テスル齒科器械消毒(一九〇四年)
- 八十四 「エローション」ニ就テ
- 八十五 齒牙ノ病理ニ關スル一研究
- 八十六 硝酸銀ノ防腐作用(一九〇五年)
- 八十七 口腔外ノ齒牙ノ病理